



センター長
田中俊也 (文学部 教授)

高等教育機関としての関西大学の全学的な教育の取り組みに実質的に責任を持つ部局として、CTLでは、大学の教育活動を教員・職員・学生・環境が一体化したものと捉えています。教員の教育力向上を目指すFD活動、職員のそれを示すSD活動、学生自身の持つ教育力のTA・LA・SAとしての活用、ICTやコモンズ空間に対する設計・提言等は、バラバラなスタンスではその成果が期待できません。CTLではスタッフ一丸となって関西大学の教育力向上にますます力強く取り組みます。



副センター長
三浦真琴 (教育推進部 教授)

最近では尋ねられることもなくなりましたが、学生も量りかねているようですが、本来の専門は教育社会学で、高等教育、就中、大学院の誕生と変容をテーマにしていました。今は大学の授業実践が省察ならびに研究の対象となっています。自身が実は構成主義に則っていることを三年ほど前に知り、それに気をよくして学生が大学生活を楽しむ契機となるアクティブ・ラーニングを実施するための研究と実践に拍車がかかっているところです。



山本敏幸 (教育推進部 教授)

学びの場を教室に限らず、広く地域社会に求められています。プロブレム・ベースト・ラーニング(PBL)を通して地域社会の人達と学生が協働し、学びをより深くする教育環境の構築を日々考えています。様々なステークホルダーがそれぞれに持っている情報、価値観、気持ちや思いを話し合いを通して共有・共感することを実践しています。そのことにより、納得のいく形で問題・課題を定義し、最適な解決案を議論し、次なるステップに向けて行動判断や段取りの合意形成ができるように協働しています。教育を見直し、活性化する、すなわち、「考動力」を涵養するには、地域連携がひとつの重要な鍵となると考えています。



森 朋子 (教育推進部 准教授)

専門とする学習研究は、20世紀後半に起きた新しい学問です。認知科学や脳科学の発展に伴い、人がどのように学ぶのか、その学びのメカニズムとプロセスを解明し、その知見を教育方法に活用します。その中では、人は人と関わり、躊躇や混沌、不安を乗り越えながら影響を与え合うことで、より学びが促進することが明らかになっています。学生の学びも、教職員の学びも、このような状況をいかに多くデザインし、隠れた能力を引き出し、サポートするかが私の課題だと思っています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



岩崎千晶 (教育推進部 助教)

こんにちは!私は教育工学を専門とし、高等教育を対象に「学びを育む学習環境のデザイン」について研究しています。CTLでは、TAやLAの活動を支援する学生力の活用プロジェクト、コモンズをはじめとした学習環境のデザインや学習支援を検討する学習環境プロジェクトにて、プロジェクト長を担っています。またライティングプロジェクトでは、学生の書く力を育むための教育プログラム、ライティングラボ運営による学習支援を検討しています。学内で見かけたら気軽にお声掛けください!



萩原恒夫 (授業支援グループ長)

「授業支援ステーション」では、職員と授業支援SAが授業運営に関するご相談やお問い合わせに対応しております。時間や技術を要するAV機器の設置および利用補助、カードリーダーによる出欠調査、ミニツツペーパー(コメント用紙)の配付・回収・整理、レポートの回収・整理など、各授業支援ステーションで承っております。今後もさらに先生や学生へのサポートを充実させていきますので、ぜひ「授業支援ステーション」をご活用ください。

From
CTL事務局

この4月からCTLの業務に携わるようになって、私がまず興味をもったのが、学習・教育効果を高めるために、学生が学生の学びをサポートする「TA(ティーチングアシスタント)」・「LA(ラーニングアシスタント)」制度、私が大学生の頃には、想像も出来なかった画期的な制度である。TAやLAを担当する学生は、実際の授業でデビューする前に、研修を受けているのであるが、果たしてサポートする学生の実力やいかに…

今回初めてLA研修(グループワーク・ファシリテーション実習)を見学し、彼らの実力を目の当たりにした。研修は教職員が進めていくのかと思いきや、経験の長いベテランLAが司会進行。運営もすべてLA自身で行っていた。ユーモアを交えながらの進行で、会場は一気に和やかな雰囲気になり、緊張でガチガチになっていた新規LAもいつの間にか笑顔に。研修では、アクティブ・ラーニングに関する基本用語の解説を交えながら、実際の授業でサポートすることになるで

あろう、その手法を取り入れたグループワークを実施。ホワイトボードシートや付箋といった小道具もうまく利用しつつ、ベテランLAが中心となり、言葉少ない新規LAからも、リラックスさせながら、うまく意見を引き出していく。絶妙な進行、活発な意見が飛び交うグループワークに、圧倒された。おそらくLAとしての経験の積み重ねが、彼らをここまで成長させたのであろう。この制度、教員や受講生のみならず、その相乗効果は、私の想像をはるかに超えていた。関大生の底力を見た。(万)



KANSAI UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching and Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

発行日/2014年6月30日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター